

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立新野小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

自ら学び、心豊かな新野の子を育成する。
 に にこにこ (人や自分を大切にする子)
 い いきいき (めあてをもって学ぶ子 すすんで働く子)
 の のびのび (元気に運動する子)
 こ こっこつ (なべ強い子)

今年度の指導の重点

- 1 指導技術を高め、授業改善を行い、わかる授業・楽しい授業づくりを進める。
- 2 基礎基本の定着に向けて、くりかえし学習・補充学習・少人数指導等を取り入れ、個に応じた指導を充実させる。
- 3 一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導と必要な支援を行い、特別支援教育を充実させる。
- 4 児童の達成感を大切にし、自己肯定感を育てる積極的な生徒指導を推進する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小・中学校)
 ○国語B・算数Aについては、県平均と比べると正答率は高い。
 ○国語Aについては、全体の点数は県平均と比べると低いが、ローマ字に大きな課題があるためであり、それ以外の問題の正答率は、県平均より高い。ローマ字は、正答率がかなり低いだけでなく、無解答率も高い。
 ○国語Aの漢字の読み書きや「目的や意図に応じて、話し合ったり、書く事柄を整理したり、読んだりする」選択問題の正答率はかなり高い。
 ○算数Aは「約分のある分数のかけ算」(2/9×3)「単位当たりの大きさ」(1㎡当たりの人数)「直方体の面の位置関係」の3問の正答率は、県平均を下回っているが、それ以外は県平均を上回っており、特に県全体の課題であった「三角形の高さ」「割合の量の関係図」の問題は、県平均を10ポイント以上上回っている。
 ○算数Bについては、「数学的な考え方」を問われる記述式問題に大きな課題があり、無解答率も高い。特に「図形」「量と測定」領域において、その傾向が強い。
 県(中学校)
 ○どの教科も、県平均の正答率を下回っているが、数学については、年々少しずつ改善の傾向にある。
 ○数学・理科における知識・理解の観点は、正答率が高く、県平均を上回っている。
 ○国語では、「読むこと」「言語事項」の基礎については、県との差は小さいが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の課題は大きく、特に全領域とも活用の課題は大きい。特に一文を二文に分ける問題ができていなかった。
 ○算数では、これまで特に課題であった「図形」の領域の正答率は、県平均を上回っており、知識・理解の観点での正答率は良い。しかし、「量と測定」領域の角の大きさ(180°を超える角の大きさを求める)や平面図形の面積(正方形と円が組み合わさった図形の面積の求め方を説明する)、「数量関係」の割合や変わり方のきまりを見つける問題の課題は大変大きい。「数学的な考え方」の観点や活用問題は厳しい。

【学習状況調査結果】

○朝食、起床時刻など、基本的な生活習慣がついている割合は比較的高いが、就寝時刻が遅い傾向にあることは、昨年と同様である。
 ○「最後までやり遂げてうれしかったことがある」「地域の行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「ボランティア活動に参加したことがある」「ニュースをみる」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」などの肯定的価値観を持っている割合が高い。
 ○普段1日あたり、テレビ・ビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間やテレビゲームをする時間は県平均より少ない傾向にあることは、良いことである。一方、スマートフォン等は、所有率が高く、使用時間も長い傾向にあるのが気にかかることである。
 ○家庭学習の時間は、「全くしない」は0%であり、「1時間以上」が半数を超えているが、「30分より少ない」の割合が高く、家庭学習の時間が少ない児童も多い。特に、土日の時間は非常に短く、予習をしている児童の割合も低い。宿題は100%できている。
 ○読書の時間も少ない傾向にあり、0分～10分の割合が54.6%と非常に高い。
 ○「近所の人にあいさつをする」という項目は、県平均より高く、大変よくできている。

成果と課題

○算数の基礎基本の積み重ねが少しずつできてきていて、力がついてきている。
 ○漢字の読み書きなども、繰り返し練習を積み重ねてきているが、抜け落ちている文字もあり、まだ十分とはいえない。
 ○どの教科も、選択式・短答式の無解答率は低く、しっかり取り組もうとする意欲は高い。
 ○どの教科も、「勉強が好き」「大切だと思う」と回答した割合が高く、学習に対して前向きな児童が多い。
 ○学習に対して前向きに取り組もうとする意識はあるものの、実態としては、やや困難な問題になると、途中で諦めてしまったり、全く無解答だったりするなど、解答の仕方がわからない実態がある。また、家庭学習においても、時間が短かったり、予習・復習の意識が低かったり、内容が不十分である傾向がある。
 ○どの教科も、活用型の問題に対して、しっかり読んで、じっくり思考したり、記述式で説明したりすることを苦手としている。
 ○スマートフォンの所有率が高かったり、使用時間が長いから、就寝時刻が遅い傾向が見られるので、生活習慣が乱れないよう手立ての必要性がある。

課題に対応した改善方法

○学習規律の整った、主体的に学習に取り組む環境づくり、学習集団作りを進める。(学級経営)
 ○算数の少人数指導、補充学習を進める。(特に必要な学年に重点を絞って)
 ○算数の教材研究を校内で進める。(重点内容、算数用語、問題を図におこすなど解決のための表現を教え使う場を設定する、ノートの書き方、いろいろな問題にあたる など)
 ○授業改善を進める。(校内研究、研究授業、講師招聘、「めあて・まとめ・振り返り」の位置づけ、自分の考えを表現したり、伝え合ったりする場の設定 など)
 ○朝学習、放課後学習で補充問題を進める。(漢字・計算の強化週間を設ける。)
 ○「問題データベース」を授業、補充学習、朝や放課後学習、家庭学習などで、しっかり使っていく。
 ○「家庭学習の時間の充実」のため、中学校区で連携しながら、メディアコントロールを進める。
 ○家庭学習を充実させるために、学校全体で自主学習を進めていく。
 ○問題を読み取る力をつけるための取組を短時間で継続して行う。(読書、視写、聴写、写話 など)
 ○スマートフォンについては、高学年に向けて、講師による研修を行う。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

○家庭学習の充実に向けて・・・「勝北っ子ウィーク」(5月、6月、10月、12月、2月)
 ○学習に対する意欲付け・・・児童へのアンケートの実施(学期ごと)
 ○4・5年生の学力たしかめテスト実施(11月)
 ○3年生の学力検査(2～3月)
 ○全国や県の学力テストの過去問題に取り組む(A・B問題ともに)

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

○「勝北っ子ウィーク」の提出率・・・80%未満の現状を85%へ
 ○「授業改善 めあて・まとめ・振り返り」・・・80%
 ○朝学習漢字・計算教科週間・・・前学年の内容80%以上の定着
 ○過去問題(活用問題)の取り組み。(話し合ったり、書いてまとめたりする)・・・(4・5・6年)
 ○家庭学習が、学年のめあての時間確保できている児童の割合をあげる。(予習・復習の意識付け)
 ○「各教科が好き」「授業がわかる」と回答する児童の意識は高いので、よりその割合を高め、理解の実態に結びつこうとする。